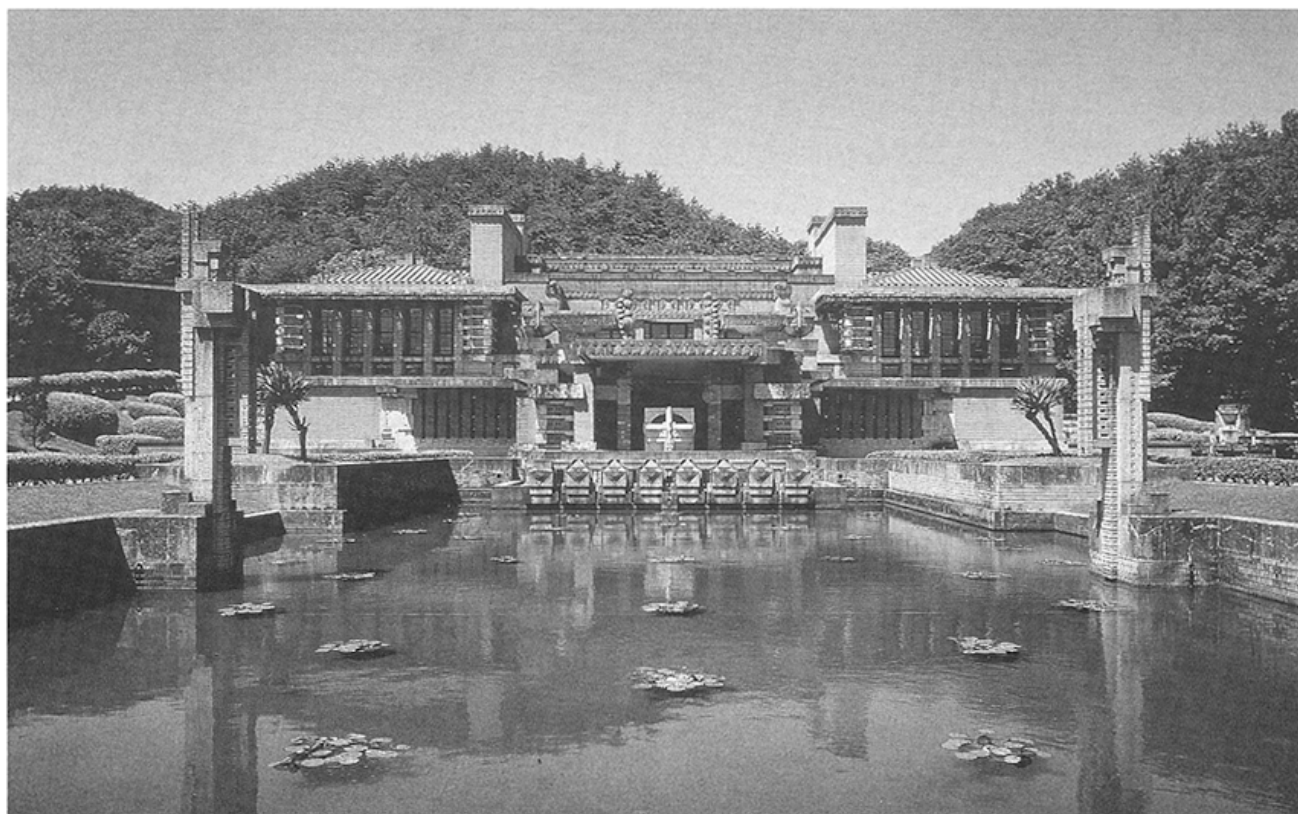




帝国ホテル中央玄関 大正12年(1923) フランク・ロイド・ライト設計

博物館明治村は明治建築を保存展示する野外博物館として昭和40年3月に開館しました。開館当初の建造物は僅か16棟でしたが、現在は63棟の建造物をはじめ、動態展示されている蒸気機関車や京都市電などの車輛、3万点を越える歴史資料を所蔵しています。建造物では10棟が国の重要文化財、1棟が愛知県有形文化財、歴史資料では2件が国の重要文化財に指定されています。また、昨年11月と本年3月に残る展示建造物のほとんどが国の登録有形文化財となりました。

写真は、20世紀を代表する世界的な建築家ライトの傑作といわれる帝国ホテル。やむなく取り壊される運命にあった建物を約10年の歳月をかけ、移築復原したものです。

## 目 次

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| ● 愛知県博物館協会職員研修会 .....         | 2 |
| ● 第28回東海三県博物館協会研修会 .....      | 3 |
| ● 「平成15年度部門別研修会」の報告について ..... | 4 |
| ・ 自然科学部門研修会                   |   |
| ・ 歴史民俗部門研修会                   |   |
| ・ 美術部門研修会                     |   |

# 愛知県博物館協会職員研修会

15年10月30日(木)・31日(金)の2日間、「博物館明治村」において愛知県博物館協会職員研修会を開催し81名が参加した。

本研修会は、2005年、地元において「愛・地球博」が開催されることから、博覧会と博物館の関係を学ぶとともに博覧会を取りまく現状について理解を深めてもらうため、「博覧会と博物館」と題して開催した。

また、15年が愛知県博物館協会の創立40周年に当たることから、創立40周年記念行事と位置づけシンポジウムも同時開催した。



シンポジウムの様子



熱心に聞き入る参加者

## ■10月30日(木)

### 1 特別発表

「名古屋博覧会と龍影閣」

博物館明治村館長 飯田喜四郎 氏

### 2 展覧会案内

「明治万国博覧会」展

博物館明治村学芸員 中野 裕子 氏

### 3 基調講演

「博物館と博覧会」

豊橋市自然史博物館館長 糸魚川淳二 氏

### 4 事例発表

「明治期の陶磁器と博覧会」

愛知県陶磁資料館主任学芸員 仲野 泰裕 氏

## ■10月31日(金)

### 1. 事例発表

(1)「博覧会による近代技術の振興と明治村に残る産業遺産」

名古屋市科学館主任学芸員 馬淵 浩一 氏

(2)「モノづくりの記録と博覧会」

名古屋市博物館学芸課主査 井上 善博 氏

(3)「明治政府による工芸指導」

瀬戸市文化振興課文化企画係長 服部 文孝 氏

(4)「博覧会と都市の表象 ―現代産業装飾芸術国際博覧会と1925年のパリー」

岡崎市美術博物館 千葉真智子 氏

### 2. 特別講演

「博覧会の政治学」

東京大学社会情報研究所教授 吉見 俊哉 氏

### 3. シンポジウム

「博物館と博覧会」

コーディネーター 糸魚川淳二 氏

パネリスト 吉見 俊哉 氏

仲野 泰裕 氏

馬淵 浩一 氏

井上 善博 氏

服部 文孝 氏

千葉真智子 氏

(でんきの科学館 小島 剛)

# 第28回東海三県博物館協会交流研修会

15年11月12日(水)・13日(木)の2日間、「大垣市スイトピアセンター」において、第28回東海三県博物館協会交流研修会が開催され、当協会から14名が参加した。

## ■11月12日

### 1. 事例発表

「元気がでる博物館活動」

(1)「四日市市立博物館のプラネタリウムの試み」

四日市市立博物館主事 南野 尊俊 氏

(2)「わたしたち元気に見えますか？」

名古屋市美術館学芸課長 神谷 浩 氏

(3)「岐阜市歴史博物館のボランティア活動について」

岐阜市歴史博物館主任 大塚 清史 氏



事例発表

### 2. 各館ブース見学

### 3. 情報交換



実験体験ブース

## ■11月13日

### 施設見学

「大垣城郷土博物館」～「大垣市郷土館」～

「守屋多々志美術館」～「奥の細道むすびの地記念館」

(愛知県博物館協会事務局)

# 「平成15年度部門別研修会」の報告

## ＜美術部門研修会報告＞

平成15年度美術部門研修会は2月27日(金)、トヨタ博物館を会場に「美術工芸品の梱包及び展示技法について」と題して開催。講師に日本通運(株)中部美術品支店 支店長駒田様、中村様、高桑様をお招きして「美術品(絵画・掛軸)、工芸品(陶器)」における梱包方法及び梱包資材の扱い方や展示技法などを実技中心で実施しました。予想に反して定員(20名)の倍以上の申込みがあり、講師の目が届く範囲ということで止むを得ず22名で実施しましたが「正しい知識や技術を身につけたい」「館で取り扱わない資料の梱包や展示方法を知りたい」など多くの学芸員が知識や技術の向上に意識していることが見受けられました。



陶器梱包の様子

実技内容は、美術品では「絵画梱包用ダンボール箱の作り方」「ヒートンの取付け位置」「紐の掛け方」「絵画の掛け位置」「掛軸の巻き方・掛け方・紐の結び方」などを実技。工芸品

では「薄用紙や綿の種類や寸法の確認」「こよりの作り方・縛り方」「作品形状に応じた綿布団の作り方・充て方」「突起物保護の仕方」「仕覆の結び方」「テグスの結び方や展示時の掛け方」「木箱の紐の結び方」「梱包用ダンボール箱の作り方」などを実技しました。講師の「資料を貸出す館は『運搬業者』に貸出すのではなく『借用する館や学芸員』に貸出すのであって、正しい技術を身に付けることで高い信用度にも繋がる」とのお言葉通り、皆プロの技を身に付けようと熱心に受けられていました。他に当館バックヤード「車両収蔵庫」「特別収蔵庫」「一般収蔵庫」にて車両の保存状態、欧米自動車史におけるリトグラフや絵画、日本自動車史での錦絵や横浜写真、車両模型等の保存方法やデータ管

理方法をご見学頂き、学芸員にとって資料管理や保存方法は現実的な内容であり活発な意見交換が出来ました。

研修後のアンケート結果では「資料に触れながら実習したことで技術習得や自信に繋がった」「少ない人数で講師との距離も近く質疑応答や意見交換がしやすかった。他館学芸員、特に若い世代での横の繋がりが出来た」と概ね好評でしたが、「一つ一つの実技が短時間で数多くこなしていっ

たので、もう少し深く習得したかった」と確実に習得されたいという意欲が伺えました。今後の希望として「彫刻や仏像・埴輪などの中級・上級編の梱包運搬方法」「保存や修復方法」など

が挙がっており、どの館も資料取り扱い方法の重要性を考えられていることが認識できました。

今回の研修にあたりまして講師の日本通運様を初め、講師や幹事にならってご指導やお手伝いを頂きました熟練学芸員様、短い時間の中をご協力頂きました参加者の方々、事前フォローを頂きました愛知県美術館様、愛知県陶磁資料館様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

(トヨタ博物館 宗沢 清美)



紐の結び方を練習

### ＜自然科学部門研修会報告＞

平成15年9月10日、豊橋自然史博物館で開催された自然科学部門研修会には、15名の参加がありました。研修は「使える植物標本入門講座」をテーマとし、「標本の作り方 維管束植物編」「標本の作り方 キノコ編」「植物を展示するための手法」の三つの内容が実施されました。



豊橋総合動植物公園内での植物採集

「標本の作り方 維管束植物編」は、豊橋総合動植物公園内での植物採集からスタートしました。一部交通機関がストップしたほどの早朝の



さく葉標本作り

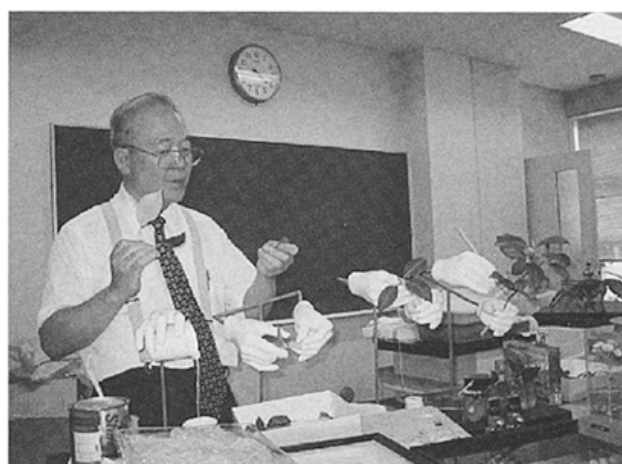


標本の保管についての講義

大雨が嘘のような、青空の見える下での散策となりました。豊橋自然史博物館の藤原直子学芸員の指導のもと、「ドングリの木」として十把一絡げにされることの多い、コナラ、ウバメガシ、マテバシイ、クヌギ、アベマキ、アラカシなどの枝葉や種子を採集しました。この時期、「ドングリ」については質問や来館者による持ち込みが増えることもあり、それぞれの幹や枝の特徴、実の食べ方などについて、参加者からはひっきりなしに質問が飛んでいました。採集した枝葉と種子は、世界標準の規格のさく葉標本に整えました。標本の保管の方法や展示への応用についての講義のほか、学校向けの貸し出し標本の作成について紹介があったのも、学校との連携に取り組み始めたばかりの私にとっては、大変参考になりました。

続いて、鳳来寺山自然科学博物館の加藤貞亨学芸員による「標本の作り方 キノコ編」では、キノコの乾燥標本および液浸標本の作り方について講義がありました。布団乾燥機とダンボールを組み合わせた自作の加熱送風機の紹介など、家庭にある道具で実践可能なキノコ標本の作成方法のほか、展示用の標本の作成に最適な真空凍結乾燥法の紹介がありました。9月に入ってから晴天続きでキノコが成長しておらず、園

内で採集ができなかったため、実践編が中止になってしまったのは大変残念でした。



株式会社西尾製作所の宮本邵吉氏による封入標本作り

「植物を展示するための手法」では、株式会社西尾製作所の宮本邵吉氏を講師に迎え、封入標本の製作を行いました。実際には、封入前の標本の乾燥だけでも数日を要する作業なので、研修会では押し花標本や葉脈標本を使って、樹脂封入の工程だけを実践しました。

ポリエステル樹脂を使った封入は、単純な工程に見えてその実温度などの条件の制御がなかなかシビアで、私の作成した合計三つの封入標本のうち一つは、標本と樹脂の間に気体が入った失敗作となってしまいました。しかし、上下左右好きな角度から観察することができ、しか

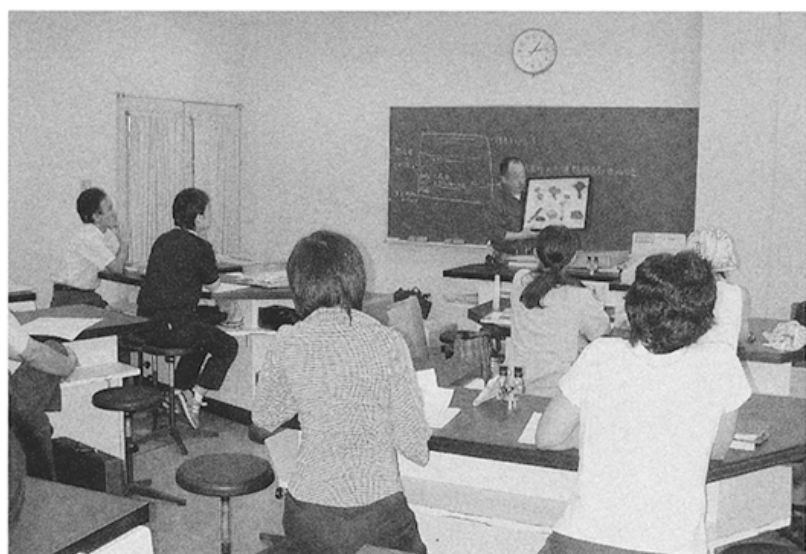
も壊れにくい樹脂封入標本は、子供向けの普及活動などに活用できそうです。近々もう一度チャレンジしてみつもりです。

本研修を通じて、身近な素材を教材や普及活動の素材として活用するための方法について、実践的な知識を得ることができました。講師のお三方はじめ実施にご尽力くださった方々に心より御礼申し上げます。

(蒲郡情報ネットワークセンター・

生命の海科学館

山中 敦子)



標本の作り方 キノコ編

## <歴史民俗部門研修会報告>

平成15年度歴史民俗部門研修会は、「印刷技術の歴史とこれから～博物館におけるこれからの図録づくり～」と題し、平成16年2月18日(水)に開催されました。参加者は愛知県内の博物館、美術館、資料館など多様な施設から39名を数え、また、研修中に参加者と講師の間で具体的な質疑が交わされた様子などから、今回のテーマには高い関心が寄せられていたことがうかがえました。

研修では、午前中の印刷現場見学および午後の二題の講演によって、デジタル技術の普及によって急速に変わりつつある印刷技術の現状を学ぶことができました。また、事前アンケートで参加者から集められた具体的な質問に基づいて各講師から解説があり、参加者が必要な情報を得るのに有効であったと思います。



印刷現場の見学  
大型のオフセット印刷機が稼働するさまは、かなりの迫力です

当日はまず一宮市内で集合後、バスで岐阜市内のヨツハシ印刷を訪れ、約1時間半をかけて工場内の見学と製版など各工程のご担当による解説がありました。印刷発注の際に入稿先として直接関わる企画・デザイン部から、製版、印刷、裁断と工程を追っての見学は特に興味深いものでした。



ヨツハシ印刷で解説をうける

午後は一宮市博物館において、東海大日本印刷株式会社の技術本部長彦坂眞一氏より「印刷技術の歴史とこれから」と題して講演があり、15世紀に発明された活版印刷から、最新のオンデマンド印刷にいたるまでの様々な手法を解説いただきました。つづいての講演「子ども向け解説書の製作について」では、一宮市博物館の図録等のデザイン、作成を手がけておられる柳

田智子氏より、印刷発注の方法として、完全原稿をデジタルで版下として入稿する手順について、具体的にご紹介がありました。

今回の研修では、より低コストで望ましい成果品を得るための印刷発注の方法について、ヒントを得ることができたと思います。具体的な点ではパソコン上でのデータの取り扱いや、使用するハード及びソフトウェアの種類等、個々のノウハ



講演 印刷業界で一般的なコンピュータであるMacPCの知識が必要でした

ウの問題が紹介されましたが、それとは別に大きなポイントをあげるなら、その一つは印刷業者とのコミュニケーションの重要性です。当然のことですが、取引のある印刷業者の備える設備の規模と能力によって、どのような仕事の進め方が可能かは異なってきます。また、意図通りの印刷物を仕上げるためには、場合によっては営業をとおさず直接デザインの担当者と打ち合わせることも必要

です。この際に、発注者側に印刷に関する知識が有るか否かが、コミュニケーションの成否に大きく関わることを実感しました。すぐに最新のデジタル技術について習得するのは容易なことではありません。しかし、今回の見学で得た知識は、今後印刷業者と会話をすすめる手がかりとして活かせるものだと思います。

(豊橋市自然史博物館 藤原 直子)

## 「愛知の博物館」 No.79

発行日 平成16年3月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒461-8525

名古屋市東区東桜一丁目13番2号

愛知県美術館内

TEL (052) 971-5511

FAX (052) 971-5617

<http://www.nihondisplay.co.jp/aihaku/>